

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		中野区療育センターゆめなりあ		公表日		令和7年2月28日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	78%	22%	<ul style="list-style-type: none"> ・集団療育の部屋だけではなく、相談室、カームダウンルームなど設置要件を大幅に上回る部屋を使用している。 ・活動やグループのねらいに応じて部屋を移動して活動を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し個々のスペースが作れる方が良いと思う。 ・体を動かして遊べる場所が少ない。 ・棚等で小さいエリアを作っているが、見から見えてしまう。可動式の壁やドアがあるとよい。カームダウンとしても使える。 	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	56%	44%	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の病欠や、個別対応が必要な際には他事業の職員も含めて事業所全体で補っている。 ・人員配置（加配）を上回る職員配置をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応のお子さんがいるときは特に足りないと感じる。 ・個別により質の高い支援するという点では足りないと感じることもある 	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	81%	19%	<ul style="list-style-type: none"> ・室内の環境を利用児に合わせて変更することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行が不安定なお子さんには一段差などあるので、気を付けている。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	88%	13%	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日廊下、トイレは委託業者の清掃が入る。また医務担当スタッフが共有部分の消毒を定期的に行っている。 		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	94%	6%	<ul style="list-style-type: none"> ・カームダウンルームがある。 ・暗幕などで暗くすることや、クッション、ウオーターベッドなど様々な感覚の中で落ち着いて過ごせるような環境になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用する権利は認められている環境だが、他の事業とも共有の為、必ず空いているとは限らない。 	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	72%	28%	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議、運営会議でよく話し合われていると思う。各事業の代表者が出て話し合っている。 ・毎日の振り返りは日々様子が変わる子供の様子を共有できるのは良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員がPDCAサイクルまでは意識できていない。 	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	94%	6%			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	69%	31%	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱を休憩室に設定している。 ・運営会議にて各事業の代表者が集まって施設の部屋や備品利用や、事業所全体の運営などについて話し合っている。 ・全職員が参加できるように全体会議は午前と午後2回行っている。 		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	90%	10%	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度に受審した。 		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	94%	6%	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体でも権利擁護の研修や、児童事業所で連携して集合研修を行っている。 ・事業所内や、法人全体の専門職での事例検討会を行っている。 ・各専門職にそれぞれベテランのSVを依頼している。 ・クラス療育にもSVを取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応の児童も多い中で、職員へのOJT十分に時間が取れない。 ・機会は設けられていますが、互いに共有し向上を図るという点では改善していけると良いと思う。 	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	中野区療育センターゆめなりあ		公表日 令和7年2月28日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	87%	13%		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	97%	3%	・支援計画フォームにて事前に保護者から聞き取りを行っている。 ・個別療育ではケアアセスメント票を活用している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	84%	16%	・療育相談、保育所等訪問支援担当職員など、利用児に関わった職員と情報共有して作成している。	・より一人ずつ丁寧に検討するための時間を確保する。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	84%	16%	・個別支援ケア会議を開催している。	・各自で把握することはできているが共有しきれていないと感じる。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	87%	13%	・療育相談、個別療育の中で、利用児に合わせて発達検査を実施している。	・全員がフォーマルなアセスメントを使うようになると思う。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	・今年度から新しい書式へ変更した。 ・支援計画書にも記載し、面談の際に保護者に説明をしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	87%	13%		・時間が限られており、話し合う時間が足りないと感じることがある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	93%	7%	・児童連携会議にて法人内の他事業所の取り組みも共有しながら工夫している。 ・書籍やインターネットの情報も活用している。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	91%	9%	・集団活動と個別活動が1日の活動の中で合わせてできていると思う。	・グループ療育のスタッフと個別スタッフがより連携が密に取れる時間があると良い。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	94%	6%	・ミーティングなどでその日の目標や個々への対応を共有してもらえるので動きやすい。	・情報を共有するアプリなどITツールの活用
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	91%	9%	・支援終了後に振り返りを行っている。	・一部勤務時間が短い職員は参加できない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	88%	13%	・書式を見直し、必要な情報を抽出して書きやすいように改善している。	・一人ずつに十分な時間がかけられない場合がある。 ・行事等の業務との中で時間を調整している。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	97%	3%	・年2回の計画のタイミングでモニタリングは実施している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	94%	6%	・会議が開催される場合は担当が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	84%	16%	・区立施設のため、地域の関係機関や行政との連携は密に行うことができている。	・保護者を介した連携が主になり、十分情報を集められない場合もある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	97%	3%	・保育所等訪問支援担当職員とは訪問後に情報共有を行っている。 ・通園先と関係機関連携加算を使用して情報共有を図っている。	・訪問やモニタリングの情報をより効率的に周知、共有していく仕組みがITツールなどを活用して設けられると良い。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	94%	6%	・就相資料や支援シートの作成を行って支援内容を共有、報告している。 ・個別に学校担当者を引き継ぐ場合もある。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	中野区療育センターゆめなりあ		公表日 令和7年2月28日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
関係機関や保護者との連携	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	76%	24%		・中野区に児童発達支援センターがない ・将来的にその役割を担う立場だと感じる。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	31%	69%	・プール活動は近隣保育園を借りて行った。 ・地域の公園へ外出して遊ぶ機会がある。	・施設として地域の他のお父さんとの交流保育などを企画していく。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	90%	10%	・連絡帳にて保護者の方からも多くの情報を送って頂いている。 ・コドモンの導入が決まった。	・バス送迎の場合は直接保護者と話す時間がないので、対面でしっかり伝えたいと感じることがある。
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	60%	40%	・保護者会の中で学習会を行っている。	・地域で取り組んでいる事業所との連携
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	90%	10%	・利用契約時に説明している。また毎年度ごとのしおりを作成し配布している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	・面談にて保護者からの意向も聞き取りながら作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	・面談にて署名を頂いて確認している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	97%	3%	・面談で一人一人に時間をかけて話を聞き、それに対して話ができていると思う。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	68%	32%	・専門職による勉強会などを開催している。	・内容やテーマの幅、開催回数などは保護者のニーズを確認しながら調整できると良い。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	94%	6%	・療育相談事業を行っており、関係機関からの紹介や保護者からの相談に応じている。	・保護者との日程調整の中で、時間がかかる場合もある。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	97%	3%	・正夢の会としてSNSを運用している。 ・各事業でおたよりを定期的に発行している。	・法人のホームページの更新が必要な部分が多い。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	・利用契約時の個人情報について承諾を得ている。外部に使用する際には別途その都度かならず保護者に確認している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	・写真カードを利用して意思疎通ができるように工夫してある。 ・外国籍の方へはボケトークなどの機器や翻訳ツールなどを使う場合もある。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	57%	43%	・学生の見学などは積極的に受け入れている。	・区民活動センターの祭り参加はあるが、もっと広げていけるといいと思う。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 中野区療育センターゆめなりあ

公表日 令和7年2月28日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	81%	19%	・嘔吐対応が時々あるため、特に感染症対応マニュアルは定期的に更新し道具のチェックを行っている。	・マニュアルは作成しているが、保護者まで周知はしていない。マニュアルの適切な見直し時期の設定が必要。
	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	97%	3%		・職員全体への周知を定期的に行う。
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	・医務担当スタッフと連携して確認している。 ・医療的ケアは囁託医とも確認している。	
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	97%	3%	・保護者を通じて対応している。	
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	84%	16%	・計画作成の上で、避難訓練等を実施している。	・オンデマンドなどを活用し、当日休んだ職員などにも効率的に受講できる仕組み。
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	71%	29%	・引き取り訓練や、災害時伝言ダイヤルの練習機会を設定している。	
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	94%	6%	・インシデント、アクシデントを日々共有している。	
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	・事業所の会議内で行っている。また法人としても権利擁護委員会の取り組みや、法人全体会議での研修などを行っている。	
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	97%	3%	・身体拘束マニュアルを作成している。	・定期的に確認する機会を設ける。入職後に確認する時期を定める。